

念願の札幌雪祭り

実は7回目は

北海道です。

ある夏は、北海道では、記録的な猛暑で、車やホテルから一步も出られない暑さ。

また、ある春の日、チューリップと芝桜と知床半島の春が、突然の零下と吹雪のため道路封鎖。

友人と大奮発した上野発の「カシオペア」のスイートは、夕刻出発で、外の景色は、ほとんど真つ暗で、しかも豪華ツインベッドはレールの真上で轟音で一睡もできず。

今度こそはと、夫と舞鶴港から深夜、特等室で出港したところ、能登半島沖で低気圧に遭遇し、ほとんどの人は、船酔いで、薬を飲んだ私たち夫婦は爆睡して、夜明けの北海道沿岸の絶景は夢の中。

今回は、娘の幼稚園時代のPTA仲間が、リタイアーして故郷の札幌に家を建て、一度冬の北海道の札幌雪祭りにいらっしやいということだ、

今度こそと7回目の北海道でした。



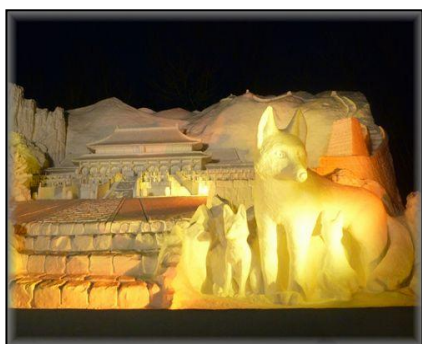
雪祭りは2月7日からで、毎年200万人の人出で、雪像の前に立ち止まることもできないとの情報に、7日には帰るといふスケジュールで5日の午前中に千歳に着きました。その前の週は、豪雪と雪下ろしと聞いていたのに、週末になり、さんさん眩しいほどの日差しで、え？？ しかし札幌郊外の彼女の家は、すっぽりと雪に覆われ、窓の外は、まるでメルヘンの世界。

その日はもちろん毛蟹や北海道の魚介類を堪能しました。翌朝は、クリスチャンのお二人と、山手の教会に礼拝に。

また夢のような雪景色です。そして、午後待望の街の中心、雪まつり時計台大通り会場へ。自衛隊の人達による迫力満点の雪の建造物の数々。大きなものは15m。万里の長城や故宮を背景にした北海道の動物たち「北海道観光王国宣言」をはじめとして、本願寺飛雲閣、韓国大田市、中国天壇、ライオンキング、サザエさん一家と力作の建造物。

また市民団体や個人のユーモラスな小物の雪像など時間を忘れてゆっくり見ることが出来ました。

開会前日で、人もそんなに多くはありませんが、驚いた



のは、中国語や韓国語が飛び交い、また欧米人の数も多く国際色豊かな雰囲気、一層雪の中のエキゾチックなムードを盛り上げていました。本当の北海道は冬！高槻のめつたに雪を見ることのない私は、7日朝、吹雪舞い上がる雪煙を見ながら帰阪の途にきました。

Y・I

渡り鳥さんも寂しそう！

昨年同じ頃、渡り鳥で紹介した伊丹の昆陽池に今年も行ってきました。

静かな池に沿った遊歩道を行けども行けども淵に出ません。おかしいなと気がつくと、市内の別の池で鳥インフルエンザが発生しましたので、池の淵に近寄らないで下さいとロープに札がぶらさがっていました。散歩する人もマラソンする人も無表情。

去年はこの遊歩道まで鳥が出てきて愛想よかつたし、写生や記録する小学生の声で賑わっていたのに。



去年の1月20日 遠までお散歩



伊丹昆陽池で優雅に泳ぐ白鳥

今年も数種の渡り鳥が見えるがただ池の淵で休んだり、白鳥が優雅に泳いでいるだけ、数も少ない。

小学生は隣接する昆虫館へ先生の後に付いて素直に直行している。

鳥も動物も人間もインフルエンザには勝てないのかしら？